

背景説明

障害のある幼児児童生徒の将来の自立と社会参加に向けた学びの充実を図るためには、障害の状態や特性を踏まえた教材を効果的に活用し、適切な指導を行うことが必要である。



目的・目標

教員が支援機器教材を活用して適切な指導を行うための体制整備の充実を図るため、ICTを含めた支援機器等教材の選定・活用に必要な指標及び学習評価方法について調査研究を行う。

事業内容

障害のある幼児児童生徒の学習を支援する教材の整備や開発が進んできている中、教員が障害の状態や特性を理解した上で、**適切な支援機器等教材を選定・活用するために必要な指標及び支援機器等の活用に伴う学習評価の研究**を行う。また、通常の学級において、支援機器等教材を必要としない幼児児童生徒及び保護者に対し、教材や支援機器等教材の充実及び活用が、障害のある幼児児童生徒の**合理的配慮及び指導上必要であることを理解**してもらうための効果的取組について研究を行う。

【教育委員会、大学、学校法人：10箇所】

学習活動を行う際の困難さを把握し、適切な指導方法の工夫として教材を選定・活用するために必要な指標の研究

例1) 書字・理解の困難：
書字速度が遅く、書字の判読が難しい。情報量が多いと混乱しがち。



アセスメント

- ・書字に時間がかかり、情報の取りこぼしが多い。
- ・考えながら書くことが困難。
- ・表現力は豊かだが、情報量が増えると理解が及ばない。



選定・活用

例2) 他者との関わりの困難：
発語がない、通りすがりに友人等に手を出したりするなどの不適切な行動有。

- ・発語がなく、返事や要求の際は、「あー」「うー」などの発声や、近くの人の手を引くなど、言葉による意思表示が困難。

- ・レポートやHRのレジメ作成時にiPad (Word、カメラ機能など) を使用
- ・書字に要する時間を軽減し、話し合いなどに集中できるようにする。



- ・学校生活において、絵カードやICT機器 (音声ペン、iPod touch等) を使用
- ・絵カードの指さしや音声ツールを使用して、教員や友人に意思表示できるようにする。

教材の活用に伴う学習評価方法の研究

- ・教員は書字の指導ではなく、情報整理や文書構成について集中して指導が可能になった。
- ・他生徒との情報共有が容易になり、本人の自尊心が向上した。

- ・自ら積極的に教員や友人に関わることが増えた。
- ・言葉で関わることで、他者への不適切な関りがなくなった。

障害のない生徒等の理解促進

合理的配慮の提供についてのリーフレットを作成し、授業で扱うことで理解を促す など

